第4回 自殺総合対策企画研修

1. 目 的

本研修は、自殺総合対策大綱の改正を踏まえ、自殺対策を企画立案する地方自治体の担当者が その企画立案能力を習得することを目的とする。

2. 対象者

都道府県(指定都市)等の精神保健福祉行政でキーパーソン的役割を担う中堅者または指導者

3. 研修期間

平成22年8月25日(水)から平成22年8月27日(金)まで

4. 研修主題

地方自治体における自殺対策の計画づくりの企画立案能力の向上

5. 研修目標

- 1) 我が国の自殺の実態、自殺総合対策大綱および国の自殺対策の動向について説明できる。
- 2) 自治体において自殺対策にどのような視点で取り組むかを説明できる。
- 3) 自殺対策に係る自治体の先進的な取組事例について説明できる。
- 4)地域の実状に応じた自殺対策を企画立案し、行動計画を策定できる。

6. 課程内容

自治体における自殺対策の計画づくりの企画立案能力の向上		(1.0)
内閣府、厚生労働省の取り組みについて		(1.0)
自殺対策の基礎知識		(2.0)
自殺対策の考え方		(2.0)
先進的な取組事例		(3.0)
自殺対策の計画づくりの企画立案		(9.0)
	会計	18時間

合計 18時間

7. 定 員

100名(応募者多数の場合は選考)

8. 受講願書受付期間

平成22年6月18日(金)から平成22年7月8日(木)まで

第4回自殺総合対策企画研修

- 1. 目的 自殺総合対策大綱の改正を踏まえ、自殺対策を企画立案する地方自治体の担当者がその企画立案能力を習得することを目的とする。
- 2. 対象者 都道府県(指定都市)等の精神保健福祉行政でキーパーソン的役割を担う中堅者または指導者
- 3. 研修期間 平成22年8月25日(水)から平成22年8月27日(金)まで
- 4. 研修主題 地方自治体における自殺対策の計画づくりの企画立案能力の向上
- 5. 研修目標
 - 1) 我が国の自殺の実態、自殺総合対策大綱および国の自殺対策の動向について説明できる。
 - 2) 自治体において自殺対策にどのような視点で取り組むかを説明できる。
 - 3) 自殺対策に係る自治体の先進的な取組事例について説明できる。
 - 4) 地域の実状に応じた自殺対策を企画立案し、行動計画を策定できる。
- 6. 課程内容(時間) 自治体における自殺対策の計画づくりの企画立案能力の向上 1.0 内閣府、厚生労働省の取組について 1.0 自殺対策の基礎知識 20 自殺対策の考え方 2.0 先進的な取組事例 3.0 自殺対策の計画づくりの立案 9.0
- 7. 定員 100名(応募者多数の場合は選考)
- 8. プログラム

8月25日(水)	8月26日(木)	8月27日(金)
会場担当:松本俊彦	会場担当:川野健治	会場担当:稲垣正俊
9:30~10:00受付		
10:00~10:15 注意事項等の説明(研究所事務係) 10:15~10:30 開講式と研修プログラムの説明 10:30~11:00 自殺対策の視点(竹島正:自殺予防総合対策センター) 11:00~12:00 自殺対策の基礎知識(高橋祥友:防衛医科大学校防衛医学研究センター)	9:00~12:00 「地域保健活動と自殺予防」 基調講演/シンポジスト: 眞崎直子(日本赤十字広島看護大学地域看護学領域) シンポジスト: 中山裕子(向島保健センター) シンポジスト: 生水裕美(野洲市市民生活相談室) シンポジスト: 宇田英典(鹿児島県姶良保健所) 座長: 宇田英典(鹿児島県姶良保健所)/桑原寛(神奈川県精神保健福祉センター)	9:00~12:00 「地域連携」
12:00~13:00 昼休み 13:00~16:00 シンポジウム「国の自殺対策はどう進むか」 ・ 基調講演/シンポジスト: 内閣府自殺対策推進室 ・ シンポジスト: 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課 ・ シンポジスト: 金融庁総務企画局企画課 ・ 指定発言者: 大塚俊弘(長崎県こども・女性・障害者支援センター) 座長: 竹島正(自殺予防総合対策センター)/大塚俊弘(長崎県こども・女性・障害者支援センター)	12:00~13:00 昼休み 13:00~16:00 「地域医療/地域精神医療と自殺予防」 ・ 基調講演/シンポジスト:松本俊彦(自殺予防総合対策センター) ・ シンポジスト:辻本哲士(滋賀県精神保健福祉センター) ・ シンポジスト: 山口和浩(横浜カメリアホスピタル) ・ シンポジスト:河内ゆかり(京都市こころの健康増進センター) 座長:松本俊彦(自殺予防総合対策センター)/辻本哲士(滋賀県精神保健福祉センター) 17:00~19:00自殺対策研究協議会「啓発・事業のあり方を考える」(自由会加・自発予防総合	12:00~13:00 昼休み 13:00~16:00 「人材育成」 ・ 基調講演/シンポジスト:川野健治(自殺 予防総合対策センター) ・ シンポジスト:白川教人(横浜市こころの 健康相談センター) ・ シンポジスト:三宅康史(昭和大学医学 部救急医学講座) ・ シンポジスト:大塚耕太郎(岩手医科大 学神経精神科学講座) 座長:川野健治(自殺予防総合対策センター)/ 白川教人(横浜市こころの健康相談センター) 16:00~16:30閉講式
おける自殺の実態把握の試み」(自由参加・自殺 予防総合対策センター/全国精神保健福祉センタ 一長会主催) ・ 報告:山田美緒(神奈川県精神保健福祉センター) ・ 報告:烟哲信(福島県精神保健福祉センター) ・ 報告:塚本哲司(埼玉県立精神保健福祉センター) 座長:松本俊彦(自殺予防総合対策センター)/松 本晃明(静岡県精神保健福祉センター)	業のあり方を考える」(自由参加・自殺予防総合対策センター/全国精神保健福祉センター長会主催) ・ 報告:小泉典章(長野県精神保健福祉センター) ・ 報告:稲垣正俊(自殺予防総合対策センター) ・ 報告:竹島正(自殺予防総合対策センター) 座長:稲垣正俊(自殺予防総合対策センター)/小泉典章(長野県精神保健福祉センター)	

第1回 心理職自殺予防研修

1. 目 的

- 1) 医療現場における心理職が患者の自殺予防に関わる重要性を理解し、自殺に傾いた人に 適切に対応できるようにする。
- 2) 研修参加者の評価を参考に、今後の研修のあり方を検討する。

2. 対象者

精神科医療機関等で働く心理職で、経験5年以内の方

3. 研修期間

平成22年7月5日(月)から平成22年7月6日(火)まで

4. 研修主題

自殺のアセスメントと基本的対応、関連する精神科診断、薬物療法の知識、ソーシャルワーク等の基礎知識の習得

5. 課程内容 (時間)

- ・自殺のアセスメントと基本的対応
- ・精神科診断と薬物療法の考え方
- ソーシャルワーク
- ・自傷行為の理解と対応
- ・自殺のリスクマネジメント (病院内でのポストベンション)
- 総合討議

合計 12 時間

6. 定 員

60 名(応募者多数の場合は選考)

7. 研修費用

受講料なし

8. 受講願書受付期間

平成22年5月6日(木)から平成22年5月21日(金)まで

9. 場所

国立精神・神経医療研究センター研究所3号館

第1回心理職自殺予防研修 プログラム

平成22年7月5日(月)~6日(火) 実施

日	時	内 容	講師	
	7 月 5 日 (月)			
10:00	10:40	開会式(センター長挨拶・オリエンテーション・効果測定)		
10:50	12:20	自殺関連行動の理解と対応の基礎	自殺予防総合対策センター 副センター長松本 俊彦	
12:20	13:20	(休憩)		
13:20	14:50	精神科診断と薬物療法の理解	自殺予防総合対策センター 適応障害研究室長 稲垣 正俊	
14:50	15:00	(休憩)		
15:00	16:00	病院内での自殺対策(postvention中心)	自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究 室長 川野 健治	
16:00	16:10	(休憩)		
16:10	17:30	CPと自殺予防(集団討議)	東京臨床心理士会 霜山 孝子・武地 美保子・中村 原子 花村 温子・福田 由利・長嶋 あけみ	
	7 月 6 日 (火)			
9:00	11:30	心理療法(CBT)と自殺念慮	長谷川メンタルヘルス研究所 所長 遊佐 安一郎	
11:30	12:30	(休憩)		
12:30	14:00	ソーシャルワーク	田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 伊東 秀幸	
14:00	14:10	(休憩)		
14:10	14:30	総括(意見交換 or 効果測定)	自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究 室長 川野 健治	
14:30	15:00	閉会式(所長挨拶)		

第1回 精神科医療従事者自殺予防研修

1. 目 的

- 1) 自殺予防における精神科医療の具体的な役割を理解する。
- 2) 自殺の背景にある精神疾患の実態を踏まえた、総合的な精神科医療の提供、チーム医療の実現、地域連携を促す。
- 3) 研修参加者の評価を参考に、今後の研修のあり方を検討する。

2. 対象者

医師を含む医療従事者

3. 研修期間

平成 22 年 9 月 14 日 (火) ~平成 22 年 9 月 15 日 (水)

4. 研修主題

精神科医療における自殺予防の取組の充実

5. 課程內容 (時間)

- ・わが国の自殺および自殺対策の実態、精神科医療の役割
- ・自殺と精神疾患
- ・日常臨床における自殺予防
- ・薬物療法の注意点~薬物乱用・過量服薬を防ぐために
- チーム医療
- ・地域連携のあり方
- 総合討議

合計 12 時間

6. 定 員

80 名(応募者多数の場合は選考)

7. 研修費用

受講料なし

8. 受講願書受付期間

平成22年7月14日(水)から平成22年7月29日(水)まで

9. 場所

国立精神・神経医療研究センター研究所3号館

- 1 目的
 - 自殺予防における精神科医療の具体的な役割を理解する。
 - 自殺の背景にある精神疾患の実態を踏まえた、総合的な精神科医療の提供、チーム医療の実現、地域連携を促す。
- 2 対象者:医師を含む医療従事者
- 3 研修期間: 平成22年9月14日(火)~平成22年9月15日(水)
- 4 研修主題:精神科医療における自殺予防の取組の充実
- 5 課程内容
 - 我が国の自殺及び自殺対策の実態、精神科医療の役割
 - 自殺と精神疾患
 - 日常臨床における自殺予防
 - 精神療法の注意点~薬物乱用・過量服薬を防ぐために
 - チーム医療
 - 地域連携のあり方
 - 総合討議
- 6 定員:80名(応募者多数の場合は選考)
- 7 研修費用:受講料なし
- 8 プログラム

9月14日(火)	9月15日(水)
会場担当:稲垣	会場担当:稲垣
9:30-10:00 受付 10:00-10:15 注意事項等の説明(研究所事務係) 10:15-10:30 開講式と研修プログラムの説明 10:30-12:00 我が国の自殺及び自殺対策の実態 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター長 竹島正	9:00-10:30 アルコール・薬物依存症の自殺予防 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター副センター長 松本俊彦 10:30-12:00 「精神科病院における自殺のリスクとその予防」 あいせい紀年病院理事長 森隆夫 指定発言:岡山市こころの健康センター所長 太田順一郎 岡山県精神保健福祉センター 副参事 野口正行 司会 :自殺予防総合対策センター 竹島正
12:00-13:00 昼休み 13:00-14:00 自殺と精神疾患 国立精神新・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター適応障害研究室長 稲垣正俊 14:00-14:15 休憩 14:15-15:45 自傷行為・過量服薬を繰り返す患者への対応 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター副センター長 松本俊彦 15:45-17:15 チーム医療:精神科医師と心理士等との連携 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究室長 川野健治	12:00-13:00 昼休み 13:00-13:30 「事例から学ぶこと」 上山病院看護師 佐藤智幸 13:30-16:00 精神科医療における自殺とその予防 全体司会 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター適応障害研究室長 稲垣正俊 スモールグループディスカッション (精神科医療における自殺予防の役割とその具体例/ 各受講者の自殺要望の観点/その他) 16:00-16:30 閉講式

※9月14日(火)の研修プログラム終了後に懇談会を予定しております。詳細は当日にご連絡いたします。

第1回 自殺予防のための

自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修

1. 目 的

- 1) 自傷を繰り返す者、あるいは、パーソナリティ障害を抱える者が自殺リスクの高い一群であることを理解し、適切に治療・対応できるようになること。
- 2) 研修参加者の評価を参考に、今後の研修のあり方を検討する。

2. 対象者

医療機関、自治体における相談業務従事者

3. 研修期間

平成22年11月8日(月)から平成22年11月9日(火)まで

4. 研修主題

自傷を繰り返す者、あるいは、パーソナリティ障害を抱える者に対する陰性感情を克服し、そ の自殺リスクの高さを理解したうえで、適切な対応ができるようになること

5. 課程内容 (時間)

自傷行為の理解と対応

パーソナリティ障害の自殺リスクと治療に関するエビデンス

パーソナリティ障害に対する面接技術

薬物療法の注意点~薬物乱用・過量服薬を防ぐために

弁証法的行動療法の紹介

パーソナリティ障害の地域支援のあり方

総合討議

合計 12 時間

6. 定 員

60 名(応募者多数の場合は選考)

7. 研修費用

当課程について受講料はかかりません。

8. 受講願書受付期間

平成22年9月8日(水)から平成22年9月21日(火)まで

9. 場所

国立精神・神経医療研究センター研究所3号館

第1回自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修 プログラム

実施日	時間帯	内容	講師	講師所属・職名
	9:30-9:35	開会式	竹島 正	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター センター長
	9:35-9:40	オリエンテーション	松本俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 副センター長
	9:40-10:00	効果測定について	川島大輔	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 研究員
	10:00-12:00	自殺予防のためのパーソナリティ障害の理解と対応	林 直樹	東京都立松沢病院 部長
11/8(月)	13:00-14:30	自傷行為・過量服薬の理解と対応	松本俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究 所自殺予防総合対策センター 副センター長
	14:40-16:10	パーソナリティ障害に併存する摂食障害の理解と対応	鈴木健二	鈴木メンタルクリニック 院長
	16:20-18:20	8:20 事例検討〜パーソナリティ障害の援助	小林桜児	国立精神・神経医療研究センター病院精神科医師
			大嶋栄子	NPO法人リカバリー 代表
	18:30-19:00	(自由参加)若者の自傷予防プログラムDVD視聴	松本俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究 所自殺予防総合対策センター 副センター長
	9:00-12:00	境界性パーソナリティ障害に対する弁証法的行動療法	遊佐安一郎	長谷川メンタルヘルス研究所 所長
	13:00-14:30	地域における女性の境界性パーソナリティ障害の支援	上岡陽江	ダルク女性ハウス 代表
11/9 (火)	14:40-15:40	パーソナリティ障害の地域支援体制:オーストラリアで の取組例を参考に	勝又陽太郎	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 研究員
	15:40-16:10	質疑応答	松本俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター 副センター長
	16:10-16:30	修了証書授与·閉会式	竹島 正	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター センター長

第1回 自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と 対応研修効果測定の結果について

1. 研修参加者のプロフィール

- 研修参加者は98名であり、研修前後で回答の得られた86名を分析の対象とした。
- 年齢: 平均年齢は40.1歳であった。
- 性別: 男性13名(15.1%)、女性73名(84.9%)であった。
- 精神医療関連資格: 精神保健指定医が2名、精神保健福祉士が45名であった。
- 現在の職業の平均経験年数: 12.03年
- 過去1年間、自殺念慮を持った人から受けた相談の平均件数: 11.83件
- 過去1年間、自死遺族から受けた相談の平均件数: 1.75件
- 自殺対策に関わる研修にこれまで参加した経験があるものは、54名(63.5%)であった。

研修ツールや教材の効果を、自殺予防に関する知識、自殺対応への自信、自殺予防への 否定的態度、そしてスキルに着目し、研修前後での変化を調査した。続いてそれらの結果 について報告する。

2. 自殺予防に関する知識

研修の各講師に依頼して自殺予防に関する知識を問う項目を作成した。項目は以下のと おりである。

- 1. 自殺念慮、自傷行為、自殺未遂はそれぞれ自殺に関係があるが、自殺既遂に至ることを警戒する必要はない。
- 2. 精神障害は、自殺の重要な発生要因の一つと考えられており、その治療には自殺予防の効果があることは、既に多くの研究で実証されている。
- 3. リストカットによる傷の手当てを求められても、自傷行動を強化する可能性がある ので、安易に手当てをするべきではない。
- 4. 自殺念慮の告白をされた場合には、相手に「死んではいけない」と明確に伝える必要がある。
- 5. 摂食障害は思春期の病気なので大人になると治る。
- 6. 摂食障害は食べることの病気なので、自傷行為は少ない。
- 7. 弁証法的行動療法、スキーマ療法、メンタライゼーションに基づく精神療法などの 心理療法は自傷、自殺行動を減少させる効果がある。
- 8. 弁証法的行動療法において、自傷行為を含めて患者を受容するのか、それとも自傷行為などの衝動行為を変えさせるのか、どちらか一方を選択することが重要である。
- 9. 慢性的な自殺傾向を抱えた人を地域で支えていく上で、援助プランは常に援助者側の判断を優先して構築すべきである
- 10. パーソナリティの問題を抱えた人を地域で支える上で、援助に携わる人は多ければ 多いほど良い
- 11. 自殺企図を起こした当人へのリスクアセスメントは、直後を含め何度か行った方がよい。
- * 7、11が正しい知識、他は誤った知識である。

これらの 11 つの知識ごとに研修前後の正答数を比較したところ、研修前後で変化のなかったのが 3 項目、研修によって正答数が増加したのが 5 項目、反対に正答数が減少したのが 3 項目であった。(図 1)

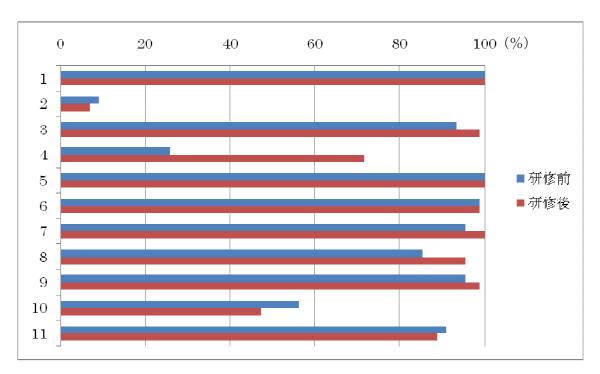


図1 自殺予防に関する知識に対する研修効果

3. 自殺予防に対する自信

自殺予防に対する自信について、5 段階(1= 「全くそう思わない」から、5= 「強くそう思う」)で尋ねた。項目例を以下に示す。

- 1. 自殺に傾いた人の話を、支持的に傾聴できる。
- 2. 自殺を実行する計画についてたずねることができる。
- 3. 自殺の危険性を適切に評価できる。
- 4. 自殺に傾いた人を適切に社会資源につなぐことができる。他 6 項目

これらの項目に対する印象は、自殺対策に取り組む自信をあらわしている。

各項目の総和を研修前後で比較したところ、研修前の平均 33.18 に対し、研修後の平均 36.36 と、統計的な差があったことから、研修によって自殺予防に対する自信が向上したといえる。(図 2)

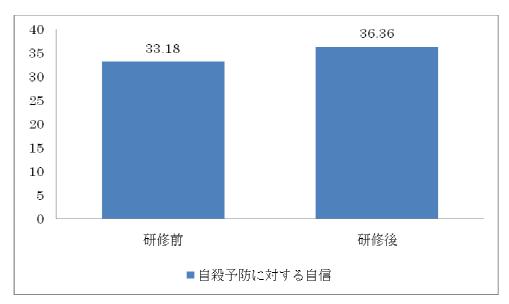


図2 自殺予防に対する自信についての研修効果

4. 自殺予防に対する否定的態度

自殺予防に対する否定的な態度について、5 段階(1=「強く反対」から、<math>5=「強く賛成」)で尋ねた。項目例を以下に示す。

- 1. 自殺の問題にこれ以上取り組めといわれるのは腹立たしい。
- 2. 私に自殺予防に取り組む責任はない。
- 3. 本当に自殺しようとする人は、誰にもそのことを告げない。
- 4. 人から自殺予防についてのアドバイスをされても、批判されているようで、受け 入れる気になれない。他 10 項目。

各項目の総和を研修前後で比較したところ、研修前の平均 32.11 に対し、研修後の平均 29.89 と、統計的な差があったことから、研修によって自殺予防に対する否定的態度が改善したといえる。(図 3)

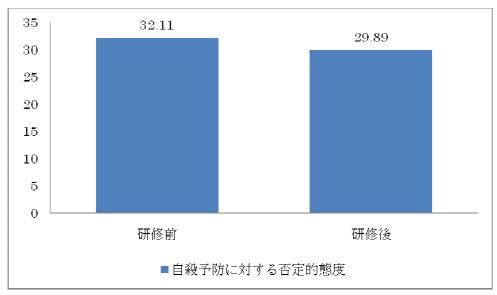


図3 自殺予防に対する否定的態度についての研修効果

5. 自殺の危機に介入するスキル

13 通りの相談場面での相談者と援助者の受け答えについて、「とても不適切な受け答え =-3」から「とても適切な受け答え=+3」で評価することを求め、この評価から自殺の危機に介入するスキルを測定した。ここでは適切な応答を選択することができるかどうかを判断することで、自殺の危機に介入するスキルの研修前後での変化を調べた。なお**得点が低い**ほどスキルが高いことを意味する。

図 4 は各項目の平均得点を、研修前と研修後を区別してプロットしたものである。13 項目のうち 11 項目において研修後の平均得点が、研修前の平均得点よりも低い値を示したことから、おおむね研修によってスキルが向上したといえる。(図 4)

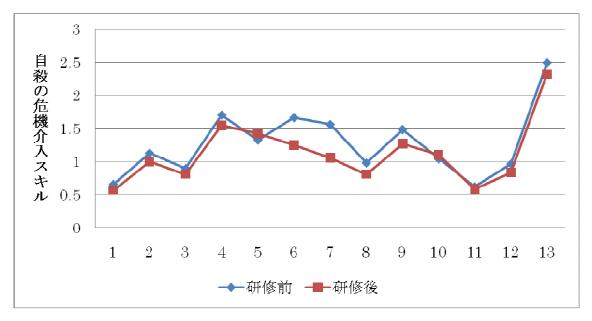


図4 自殺の危機介入スキルに対する研修効果

第2回 精神科医療従事者自殺予防研修

- 1. 目 的
 - 1) 自殺予防における精神科医療の具体的な役割を理解する。
 - 2) 自殺の背景にある精神疾患の実態を踏まえた、総合的な精神科医療の提供、チーム医療の実現、地域連携を促す。
 - 3) 研修参加者の評価を参考に、今後の研修のあり方を検討する。
- 2. 対象者

医師を含む医療従事者

3. 研修期間

平成 22 年 11 月 30 日 (火) ~平成 22 年 12 月 1 日 (水)

4. 場 所

岡山コンベンションセンター (岡山市内)

5. 研修主題

精神科医療における自殺予防の取組の充実

6. 課程内容 (時間)

- ・わが国の自殺および自殺対策の実態、精神科医療の役割
- ・自殺と精神疾患
- ・日常臨床における自殺予防
- ・薬物療法の注意点~薬物乱用・過量服薬を防ぐために
- チーム医療
- ・地域連携のあり方
- 総合討議

合計 12 時間

7. 定 員

80 名(応募者多数の場合は選考)

8. 研修費用

受講料なし

9. 受講願書受付期間

平成22年9月29日(水)から平成22年10月12日(火)まで

第2回 精神科医療従事者自殺予防研修 プログラム

於:岡山コンベンションセンター

	11月30日(火)		
9:30~	受	付 開 始	
		自殺予防総合対策センター センター長 竹島 正	
10:00-10:30	開講式・オリエンテーション	財団法人慈圭会 慈圭病院 院長 堀井 茂男	
		岡山県精神保健福祉センター 副参事 野口 正行	
		岡山市こころの健康センター 係長 岩本 真弓	
		自殺予防総合対策センター センター長 竹島 正	
10:30-12:00	我が国の自殺及び自殺対策の実態	(司会) 財団法人慈圭会 慈圭病院 院長 堀井 茂男	
12:00-13:00	昼	食・休 憩	
	自殺と精神疾患	自殺予防総合対策センター 適応障害研究室長 稲垣 正俊	
13:00-14:00		(司会)岡山県精神保健福祉センター 所長 藤田 健三	
14:00 - 14:15		休 憩	
	(シンポジウム)自傷行為・過量服薬を 繰り返す患者への対応	岡山済生会総合病院 救急科医長 野崎 哲	
		岡山市立市民病院 救急担当看護部長 矢敷 朝代	
		広島市民病院 精神科部長 和田 健	
14:15-16:15		関西医科大学医学部精神神経学講座 精神保健福祉士 山田 妃沙子	
		(司会) 岡山市こころの健康センター 所長 太田 順一郎	
		(司会)総合病院岡山赤十字病院 救命救急センター長 實金 健	
	チーム医療:精神科医師と心理士等との連 携	自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究室長 川野 健治	
16:15-17:15		(司会) 岡山県精神保健福祉センター 副参事 野口 正行	

	12月1日 (水)		
9:00-10:30	アルコール・薬物依存症の自殺予防	ゆうクリニック 院長 柳田 公佑 (司会) 岡山県精神科医療センター 院長補佐 河本 泰信	
10:30-12:00	精神科病院における自殺のリスクと その予防	医療法人愛精会 あいせい紀年病院 理事長 森 隆夫 (司会)自殺予防総合対策センター センター長 竹島 正	
12:00-13:00	昼	食・休 憩	
13:00-13:30	事例から学ぶこと	医療法人二本松会 上山病院看護部 看護師 佐藤 智幸	
13:30 – 16:00	(スモールグループディスカッション) 精神科医療における自殺とその予防	医療法人二本松会 上山病院看護部 看護師 佐藤 智幸 岡山県精神保健福祉センター 所長 藤田 健三 岡山市こころの健康センター 所長 太田 順一郎 岡山県精神保健福祉センター 副参事 野口 正行 自殺予防総合対策センター センター長 竹島 正 自殺予防総合対策センター 自殺予防総合対策センター 自殺予防総合対策センター	
16:00-16:30	閉講式・	(全体司会)自殺予防総合対策センター 適応障害研究室長 稲垣 正俊 ・修了証書授与	
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		